

沖縄県公立幼稚園・こども園会 沖縄県公立幼稚園・こども園長会 研究大会（島尻大会）から「幼児教育」について学ぶ

所外研修の3回目として、10月21日(水)に沖縄県公立幼稚園・子ども園会 沖縄県公立幼稚園・こども園長会 研究大会（島尻大会）に参加しました。

研究発表は、北中城村立北中城幼稚園 金城典子 副園長による「身近な環境に積極的にかかわり、生き生きと遊ぶ子どもをめざして」、竹富町立うえはら幼稚園 武元英輝 園長による「豊かな心を育むための多様な人との交流」でした。

その後、汐見稔幸氏（白梅学園大学 学長・東京大学名誉教授）を講師として、「今後の幼児教育のあり方～幼保小の連携を通して～」と題して講演が行われました。

南風原町立中央公民館の黄金ホールを埋める幼稚園関係者の中、当教育研究所の教育研究者も熱心に聞き入っていました。

【講演の概要】

○今、保育の専門性を高めなければならない時代

その理由は

- ①子どもの育ちの環境、条件が大きく変わってきて、**育ちの懸念**が増えてきた。
- ② 21世紀は今よりも**困難な問題が山積**。それを解決する力が求められる。

この課題に対応するため、**保育力のアップ**が大事！

○欧米の各国は、保育・幼児教育重視を国策としている

その理由は

- ①**女性労働力**が大事な時代、それを保証するには保育充実が重要
- ②**貧困問題**の解決には貧困層の教育水準を上げることが肝要
- ③困難が拡大している**社会の問題を解決する**には国民の教育水準を上げるのが一番

○保育の専門性には二つの側面が

- ①保育にかかわる知識をより深いレベルで理解し、持っていること
- ②よりきめ細やかで、ていねいな保育の実践力

○今、20世紀型の保育原理のいくつかが有効でなくなっている

◎子どもの運動能力の全国調査 全国4・5・6歳児 11,502人

◎調査6項目 25m走、立ち幅跳び、体支持持続時間、ソフトボール投げ、両足連続飛び越し、捕球

- ①**園庭の面積が広い**ほど、子どもの**運動能力が高かった**。
- ②6種目の合計は、**幼稚園の方が**保育所より有意に点が高かった
- ③**運動指導を行っていない園の方が**、行っている園よりも有意に点が高かった
- ④積極的に運動指導しているほど、また**一斉指導**をしている度合いが高いほど、**点は低かった**。
- ⑤子どもが園で運動するとき、**子どもが運動の種類やルールを決める度合いが高い園ほど**、点が高かった。

●これまで、保育は「生活」の中での育ちを土台として、その上に上物づくしをしていた、今は、土台が期待できなくなり、**土台と一緒に上物をつくる**、これが現代の保育の課題

●子どものもとめているもの**に「ていねい」に対応**、育ちのレベルに**「ていねい」**に応じる、子どもの心や自尊心がきちんと育つように、**「ていねい」に環境を整える**・・・**「ていねいな保育」**

○ていねいな保育

- こども目線に常に立つ、ていねいさ
- 子どもに常に聴く、聞く、きく

あなたは何かしたいの？あなたは何かをしてほしいの？→それに適切に対応する

○参考：プロジェクト型保育、テーマ型保育

○参考：ドキュメンテーション

○沖縄型の幼保小連携の大事さ、難しさ

●参考文献 汐見稔幸著 『本当は怖い小学一年生』 ポプラ新書

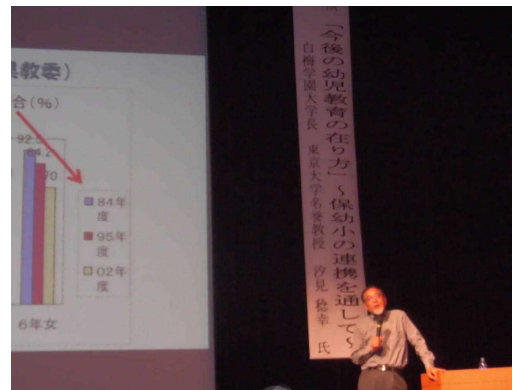


写真1 汐見稔幸氏講演

教育研究員の感想 (研修日誌から)

保育の専門性を高めるとよく耳にしますが、何が専門性？専門性を高めるって？と、ぼやけていたところがありました。しかし、講演の中でキーワードを出して下さり、具体的な専門性を学ぶことが出来ました。そのキーワードとは、①きめ細やかで、ていねいな保育の実践②遊びの中から何を学んでいるか見抜く力を鍛える、の2点だと私なりに考えました。どちらも、子どもに寄り添って子どもの立場にたつということがいかに大切か改めて感じました。また、これからの社会では、保育の現場が「生活の場」としての役割も果たさないと、子ども達の生活の経験の差を縮めて、学びの意欲(やってみようという気持ち)を保証してあげられないのだと感じ、きめ細かい援助の必要性がわかりました。自分を自分自身で認める、自分で人生を創っていけるような“ラーニングストーリー作り”の手助けとなるような教師になりたいと強く思いました。(上原亜矢)

幼稚園の研究発表を初めて聞きました。亜矢さんから保育についてミーティングで話を聞いていたのですが、遊びを幼稚園がとても重視していると感じました。北中城の幼稚園の事例でスケーター遊びやわくわくランドなどの遊びがありましたが、小学校の授業のように教師の支援が細かく、ねらっている子どもの姿になるように意図した遊びをさせていると感じました。また、環境構成についても廊下を走らないように床に印をつけてしからず子ども自らが走らないような気持ちにさせることや竹馬の高さを変えて上手な子への対応など小学校の授業で児童への課題の出し方とよく似ていました。

汐見先生の講演では、なぜ今3年保育が必要なのか、昔と今の子どもたちや社会の様子は確実に変わってきている、そしてこの子ども達が成長していく21世紀は今の時代よりもっと困難な問題に直面しなければならないので昔より保育のレベルを上げる必要があるとのことでした。また、とにかく子どもにはたくさんものを見たり聞いたり体験させたり、さらに体を使って遊ばせることで子どもは何でもやってやろうとかあきらめない心をもっていくので、小学校でもなるべく子どもの体験的な活動を取り入れていくことが大切だと感じました。(久高友弥)

幼児教育について講話を頂戴したり、学んだりすることは大学の講義以来で、20年前とだいぶ変わっていました。研究発表では、アンケートや観察などから子ども達の実態を把握し、それに沿った保育環境を設定することで、子ども達の遊びを保障して、学びを豊かなものにするという内容でした。教師や友達、そして、地域とかかわりながら相手の気持ちを考えたり、約束を守るようになったりしてルールの大切さを学ぶことができたという成果を聴き、小学校では、遊びの保障は難しいですが、学習に置き換えて対応できることではないかと思いました。

汐見先生の講演では、子どもは、いろいろな人がかかわる方ほど社会性が身につくことや遊びを豊かにするほど育ちが大きくなる。そして、豊かな遊びをさせることで子どもにどんな力がついているのか見抜くことが教師の使命であること、また、教師として常に子どもにどんな力を身につけさせたいのかを脳裏において、指導にあたることの大切さを学ぶことができました。「子育てに練習はない」のお言葉には、親としてハッとさせられました。…納得です。

現場に戻ったら、今日学んだことが生かせるように、常に子ども目線に立って「ていねいな教育」「ていねいな指導」ができるように頑張ります。(富名腰由紀)

待機児童を減らすために政府も動いていることはニュースなどから知ってはいましたが、その理由は、女性の社会参加だと思っていましたが、実は、真のテーマは幼児教育を充実させることで、これから21世紀に対応できるような教育をめざしていることだとわかり、とても新鮮でした。また、私も子育て真っ最中なので、幼稚園の先生方の子どもへの接し方はすごく参考になります。いろんな方面からいろんな視点で物事をみることは大切だと感じました。

ロバート・フルガム「人生の大切なものは幼稚園の砂場で学んだ」というのは汐見先生がお話したかったことだと感じました。

我が子にもいっぱい絵本を読んであげたいと思いました。(波照間生子)